

2014年度
情報処理学会
東海支部報告会

日時：2014年5月19日（月）15:00～16:00

場所：ホテル ルブラ王山

次 第

I. 開会の辞

II. 支部長挨拶

III. 報告事項

1. 2013年度事業報告
2. 2013年度決算報告
3. 東海支部表彰規程改定について
4. 2014運営委員改選結果報告
5. 2014年度運営委員
6. 2014年度事業計画
7. 2014年度予算
8. その他

IV. 閉会の辞

一般社団法人情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTTDATA伏見ビル内

TEL：(050)5556-2856 FAX：(052)204-4783

E-mail：shibu@ipsj-tokai.jp

1. 2013年度事業報告

1.1 支部設立 30 周年記念行事

2013年5月27日(月) ホテルルブラ王山

- ・記念シンポジウム 参加者 71名
 - 講演1: 「この30年を振り返って」 稲垣康善 氏 (豊橋技術科学大学 理事・副学長)
 - 講演2: 「The Evolution of Online Advertising Platforms: From Search & Display to Video, Social and Mobile」 Joaquin A. Delgado 氏
(Intel Corporation, Director of Data Analytics at Intel Media)
 - 講演3: 「無線通信技術の進歩とワークスタイル変革～最新ソリューション及び今後の展望」 松本洋一 氏 (アルパネットワーク (株) 取締役社長)

- ・記念祝賀会および 2012 年度学生論文奨励賞表彰式 参加者 74名

- ・記念誌「東海支部30年のあゆみ」 発行 250部
 - 「30年を振り返って」 坂部俊樹 氏 (名古屋大学 教授)
 - 「記念シンポジウムの概要」
 - 「最近 10 年の活動記録」
 - 「歴代役員・委員の名簿」

- ・実行委員
 - 実行委員長: 坂部俊樹 (名大)
 - 実行委員 : 岩瀬勇二郎 (トヨタデジタルクルーズ)
 - 伊藤孝行 (名工大)
 - 大野宏司 (豊田中研)
 - 杉浦宏幸 (中電)
 - 柘植 覚 (大同大)
 - 西田 直樹 (名大)
 - 松本 忠博 (岐大)
 - 中谷正美 (情報処理学会)

- ・実行委員会
 - 第1回 2013年2月15日(金) 若竹クラブ 同日2012年第5回幹事会開催
 - 第2回 2013年4月8日(月) 若竹クラブ 同日2013年第1回幹事会開催
 - 第3回 2013年4月30日(火) 若竹クラブ 同日学生論文奨励賞選定委員会開催

1.2 支部報告会

2013年5月27日(月) ホテルルブラ王山

参加者 33名 (開催時出席者)

1.3 運営委員会

- 第1回 2013年 5月27日(月) ホテルルブラ王山 参加者 32名
- 第2回 2013年12月 4日(水) 東桜会館 第1会議室 参加者 19名
- 第3回 2014年 5月19日(月) ホテルルブラ王山

1.4 幹事会

- 第1回 2013年 4月 8日(月) 中電若竹クラブ 参加者 13名
- 第2回 2013年 6月13日(月) 中電若竹クラブ 参加者 9名
- 第3回 2013年10月10日(木) 中電若竹クラブ 参加者 9名
- 第4回 2013年11月27日(水) 中電若竹クラブ 参加者 9名

1.5 電気関係学会東海支部連合大会 主催1回

1.5.1 大会の概要

- (1) 期日：2013年9月24日(火)、25日(水) 2日間
- (2) 会場：静岡大学浜松キャンパス
- (3) 主担当学会：電気学会東海支部
- (4) 主催：電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、IEEE名古屋支部
共催：電気設備学会中部支部、静岡大学
- (5) 特別講演1件、合同シンポジウム1件、シンポジウム3件、一般講演、企業展示、懇親会
・特別講演1件
演題：「電動化技術が切り拓く航空機の未来」
講師：西沢 啓 氏
(宇宙航空研究開発機構 航空本部 航空技術実証研究開発室
電動推進システム技術飛行実証チーム 主任研究員)

・合同企画シンポジウム (1件)

テーマ：「スマートコミュニティに向けた取り組み
～それぞれが始めた最先端技術を紹介～」

- オーガナイザ (全体) : 吉田 隆氏 (名大)
オーガナイザ (電気) : 加藤 丈佳氏 (名大)
オーガナイザ (電子) : 岡田 啓氏 (名大)
オーガナイザ (情報) : 河口 信夫氏 (名大)

・シンポジウム (3件)

S1. 情報処理学会東海支部企画シンポジウム

テーマ：「先進的音声インタラクション技術と実応用」
オーガナイザ : 打矢 隆弘 氏 (名工大)

S2. 電気学会東海支部企画

テーマ：「情報・メカトロニクス技術による快適・健康な未来の創造」
オーガナイザ : 森田 良文 氏 (名工大)

S3. 電子情報通信学会東海支部企画

テーマ：「ビッグデータとセキュリティ」
オーガナイザ : 伊藤 嘉浩 氏 (名工大)

(6) 奨励賞

奨励賞選考数 (奨励賞+B賞+IEEE学生奨励賞) 合計：48名
(平成24年度50名、平成23年度40名、平成22年度38名)
審査希望申請者数 合計：483名
(平成24年度500名、平成23年度396名、平成22年度371名)

情報処理学会所属受賞者

連合大会奨励賞(8名)

ウキエツ (名工大) 「位相シフトデジタルホログラフィによる三次元計測の高速化に関する検討」

細野 友章(名城大) 「ARを用いた家電制御フレームワークの検討」

渡邊 岳 (中部大) 「Mean-Shift法による物体検出を用いた移動物体追跡」
 伊藤 達也(名城大) 「無線ネットワーク可視化システムにおけるリンク表現の検討」
 牧原 義人(名工大) 「CPG歩行におけるActor-Criticに基づく動的制御」
 早川 顕太(名城大) 「インストール時の特性を利用したワーム検出の一手法」
 太田 雄大(愛工大) 「タブーサーチを内包したMCTSに基づく詰碁アルゴリズム」
 稲木 大 (名大) 「統計的機械翻訳に基づく法令のあらましの日英翻訳」

1.5.2 大会参加

- ・一般講演 610件 (オーラル：530件、ポスター：80件)
(平成24年度649件、平成23年度672件、平成22年度617件)
- ・企業展示 3社 (平成24年度3社、平成23年度5社、平成22年度6社)
- ・広告・援助企業数 29社 (平成24年度31社、平成23年度47社、平成22年度43社)
- ・特別講演参加者数 126名 (平成24年度133名、平成23年度172名、平成22年度68名)
- ・大会参加者数 985名 (平成24年度1107名、平成23年度1123名、平成22年度1103名)
- ・懇親会参加者数 73名 (平成24年度92名、平成23年度55名、平成22年度95名)

1.5.3 情報処理学会東海支部所属委員

■大会委員会

副委員長：岩瀬 勇二郎 (トヨタデジタルクルーズ)

会計監査：武田 治 (中電)

■実行委員会

委員：打矢 隆弘 (名工大) ・磯 直行 (中京大)

事務局：中谷 正美 (情報処理学会東海支部)

■プログラム編集委員会

委員：打矢 隆弘 (名工大) ・磯 直行 (中京大) ・本田 晋也 (名大) ・
 小川 泰弘 (名大) ・大園 忠親 (名工大) ・加藤 昇平 (名工大)

・大会委員会

第1回 第1回実行委員会合同

第2回 メール審議

第3回 第4回実行委員会合同

・実行委員会

第1回 2013年4月10日(水) 名古屋大学 IB電子情報館北棟5階電気系会議室
 議題：開催日程・実施概要他

第2回 2013年8月23日(金) 名古屋大学 IB電子情報館北館5階電気系会議室
 議題：大会プログラム

第3回 2013年9月25日(水) 静岡大学浜松キャンパス 工学部2号館E大会議室
 議題：大会運営

第4回 2014年1月22日(水) ルブラ王山
 議題：事業決算報告・大会名称変更・奨励賞贈呈

・プログラム編集委員会

2013年7月30日(火) 名古屋大学 1B電子情報館北棟5階電気系会議室

1.6 講演会 6回 (主催6回)

(1) 2013年7月12日(金)

演題：「計算の可逆性制約を活かした新しいプログラミング言語」

講師：横山 哲郎氏 (南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 准教授)

於：名古屋大学 東山キャンパス IB電子情報館中棟 IB013講義室 参加者 34名

コメント：本講演会では、可逆計算の分野でご活躍されている横山哲郎准教授(南山大学)に可逆計算の研究成果および今後の課題について講演していただいた。講演ではまず、可

逆計算の概要、研究の歴史、可逆計算プロセッサなどを紹介していただき、可逆計算の研究分野を聴講者に分かりやすく解説していただいた。さらに、可逆計算の計算モデル、可逆命令セットアーキテクチャを説明していただき、補完関数を用いてどのように非可逆関数を可逆にして扱うかなど解説していただいた。また、可逆計算モデルが可逆チューリング完全であることなどを、専門外の聴講者でもわかるように証明の概要をご紹介いただき、可逆計算の体系に関して短い講演時間にも関わらず、非常に理論的な理解を深められる解説をしていただいた。また、横山氏の可逆計算に関する研究成果とその位置づけを合わせてご紹介いただき、可逆計算の研究分野の最新の動向、および将来の新しい計算機構の実現に向けた可逆計算の貢献の可能性についてご紹介いただいた。

本講演では、非常に理論的に深い内容を、専門外の聴講者でも直観的に理解できるようにわかりやすく解説していただき、さらに、研究分野の第一線で活躍されている横山氏から直接、最新かつ今後の研究分野の動向をご紹介いただけるという、非常に有意義な講演会であった。また、講演が非常にわかりやすかったために、講演後の質疑応答の際には、聴講者から非常に技術的に深い質問も多く見られた。

(2) 2013年10月11日(金)

演題：「人に話したくなる『音声の認識とヒューマンエラーのおはなし』」

講師：黒岩 眞吾 氏 (千葉大学 大学院融合科学研究科)

於：大同大学 滝春校舎 S等0305教室

参加者 40名

コメント：千葉大学 大学院融合科学研究科 教授 黒岩 眞吾 氏による上記の演題による講演会を開催頂いた。添付写真の通り参加者は大同大学学生が多かったが、情報処理学会の会員も数名おり、合計で約40名程度であった(講演の様子を下記に添付する)。演題は「人に話したくなる『音声の認識とヒューマンエラーのおはなし』」と研究内容と言うよりは広く一般的に興味を喚起する演題であった。講演中に聴取者も参加できる内容もあり、情報伝達だけではなく講演に参加していることが実感できる内容であり、非常に好評な講演であった。講演時間が設定した時間いっぱいとなってしまったため、質疑応答の時間を取ることができなかつた点が残念な所であった。時間が90分で少々足りない気がするほど、有意義な講演であった。

(3) 2013年10月23日(水)

演題：「スマートフォン向け音声対話3Dエージェントの開発」

講師：山本大介氏 (名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授)

於：名古屋工業大学 2号館 0211講義室

参加者 90名

コメント：本講演会では、世界初の技術である「スマートフォン向け音声対話3Dエージェント」を開発した山本准教授(名工大)に、基盤技術と応用技術について講演して頂いた。講演ではまず、名工大正門に2011年4月から設置されている双方向音声案内デジタルサイネージシステム「正門メイちゃん」の概要とハードウェア構成を紹介いただいた。そしてサイネージを利用した、学内のイベント案内・キャンパス案内・教員案内のデモをしていただいた。

学内のアンケート結果も公表され、3Dキャラクタ「メイちゃん」の実在感、音声認識率の精度などがユーザから高評価を受けていることが報告された。次に、サイネージシステムで利用されているソフトウェアMMDAgentについて、音声認識/音声合成の仕組み・3Dキャラクタの制御方法・対話シナリオの記述方法などの紹介があった。続いて、可搬型の音声対話システムの実現を目指して開発された、2つのモバイル向け音声対話システムの説明が行われた。1つ目は、ビデオ通話機能を用いたシステムであり、モバイル端末のユーザの音声をストリーミングでサーバに転送し、サーバ側で音声認識を実現するモデルである。このモデルを用いて、オープンキャンパスにおける学科案内などを行った実績が紹介された。また、このモデルではネットワーク通信に起因する対話の遅延

が発生する問題についても触れられた。2つ目はスマートフォン単体で動作するシステムであり、音声認識・音声合成・キャラクタ表示が可能なモデルである。ストリーミング型やApple社のSiriと比較して、音声対話のレスポンスが極めて速いこと、電力消費量も実用に耐えうることが強調されていた。最後に、提案システムの社会応用として、大学キャンパスにおける道案内音声ナビゲーションなどを紹介いただいた。また、今後の展開として、情報循環を加速するためのオープン戦略・ネットワーク戦略について述べられ、ユーザ参加型のコンテンツ作成環境の構築に向けて準備を進めていることが報告された。

山本氏の講演は、未来の生活を創造する新しい音声対話技術をわかりやすく表現されており、音声インタラクション技術の将来性を聴講者に感じさせる内容であった。会場には学生を中心に90名の聴講者が集まり、講演会終了後の質疑も大変活発であった。

(4) 2013年11月18日(月)

演題：「ろう者と手話：『もうひとつの言語』の地位と役割」

講師：加藤三保子氏（豊橋技術科学大学 総合教育院 教授）

於：岐阜大学 工学部 13番教室

参加者 26名

コメント：一般にあまり知られていない手話とその使用者であるろう者について、主に言語学的な観点からわかりやすく解説していただいた。まず、言語である手話とジェスチャーの違いや、手話が世界共通の言語ではないこと、それにもかかわらず国が違っても手話はある程度通じること、手話にも喃語があり、親が手話で話しかけていれば赤ちゃんは手話の喃語を話すことなど、手話やろう者に接する機会の少ない人々が疑問を持ちやすい事柄について丁寧に述べられた。また、手話を学習する健聴者や中途失聴者の増加、手話の普及に伴って、手話が多様性をもつ言語として新たな発展段階に到達しているとする社会言語学的な立場からの研究が紹介された。英語がそれを母語としない人々の間にも普及し、その地域で独自の英語が発展してきたこととの対比で手話の発展について述べられた興味深い考察であった。

(5) 2013年12月4日(水)

演題：「名古屋市科学館のプラネタリウム」

講師：毛利 勝廣氏（名古屋市科学館 学芸課 主任学芸員）

於：東桜会館1階 第2会議室

参加者 34名

コメント：名古屋市科学館 主任学芸員 毛利 勝廣氏により、世界最大規模を誇る名古屋市科学館のプラネタリウムについて、その設計思想と採用された最先端の映像・音声技術について、講演頂いた。

まず、天文学であるプラネタリウムの歴史・概況を説明頂いた。良いプラネタリウムを作るためには、「入れ物→もの→スタッフ入れる」でなく「入れ物→スタッフを入れる→いいものを研鑽する」という流れが重要など、学術を進めるうえで重要なポイントを情報共有した。

また、名古屋市科学館が大切にしているコンセプトと、それを実現するために必要となった技術要素について詳しく説明頂いた。自然で広く水平な星空を実現するための「建物」の設計、自然な見え方や音声を実現するための映像・音声技術、そして、きめ細やかな3D映像を実現する情報処理技術など、実例や準備・テストの様態など交えて解説頂いた。最後に、時事話題である「アイソン彗星」について紹介されるなど、全体として興味深い内容であり、「情報工学に通じる考え方」、「技術にかける情熱」について聴講者に感じさせる内容であった。講演会場の関係で学生参加者が少なかったが、是非若手研究者に聴講して頂きたい内容であった。

(6) 2014年3月14日(金)

演題：「音声・画像処理の共通点と統合・変換処理について」

講師：有木康雄氏（神戸大学システム情報学研究科 教授）

於：豊橋市民センター（カリオンビル）6階多目的ホール

参加者 50名

コメント：神戸大学 教授 有木 康雄 氏により、上記の演題についてご講演を頂いた。本公演の前には豊橋技術科学大学 教授 中川 聖一氏の記念講演会・討論会が開催されており、聴講者としては音声系の研究者が多く参加されており、約50名となり活発な講演会となった（会場の様子を写真添付する）。演題は「音声・画像処理の共通点と統合・変換処理について」であり、音声系の聴講者が多く、音声での手法が画像処理における応用方法について、画像処理においてのみ使用されている方法などの紹介をして頂き、基礎的な内容から応用技術まで幅広いご講演であった。講演中の質疑応答では、非常に多くの質疑応答がなされ活発な討論がなされた。多くの参加者に有意義な講演であったと思われる。

1.7 研究会他15回（協賛13回、その他2回）

(1) 2013年6月28日（金）

「発想力ワーキングショップ:アイデアを形にする方法」

（協賛、主催：名工大グリーン・コンピューティング研究所）

(2) 2013年7月16日（火曜日）

「TPS/Agileソフト研究会」セミナー

（協賛、主催：一般社団法人 持続可能なモノづくり・人づくり支援協会（略称 ESD21））

(3) 2013年7月27日（土）

「IT企業向け 留学生採用・活用セミナー交流会&合同就職説明会」

（協賛、主催：一般社団法人中部産業連盟）

(4) 2013年8月23日（金）

「東海地区留学生採用・活用セミナー&合同就職説明会」

（協賛、主催：一般社団法人中部産業連盟）

(5) 2013年9月5日（木）～9月7日（土）

平成25年度（第46回）照明学会全国大会

（その他、主催：一般社団法人照明学会）

(6) 2013年9月20日（金）

日本OR学会中部支部第10回シンポジウム

「機械学習とデータマイニングによる知識発見」

（協賛、主催：日本オペレーションズ・リサーチ学会 中部支部）

(7) 2013年10月2日（水）

東海地区留学生採用・活用セミナー&合同就職説明会」総合編パート2

（その他、主催：一般社団法人中部産業連盟）

(8) 2013年11月6日（水）・7日（木）

フロンティア21エレクトロニクスショー2013

（協賛、主催：中部エレクトロニクス振興会）

(9) 2013年11月12日（火）

プロジェクトマネジメント学会中部支部大会

（協賛、主催：プロジェクトマネジメント学会中部支部）

- (10) 2013年11月15日(金)
JaSST'13 Tokai ソフトウェアテストシンポジウム2013東海
(協賛、主催：JaSST'13 Tokai 実行委員会)
- (11) 2013年11月30日(土)～12月1日(日)
第11回 情報学ワークショップ WiNF 2013
(協賛、主催：愛知工業大学 情報科学部)
- (12) 2014年1月11日(土)
『第4回 ITトレンド・フォーラム』
～ネットワーク社会のものづくり”ソーシャルファブ”～
(協賛、主催：一般社団法人 持続可能なモノづくり・人づくり支援協会 (ESD21))
- (13) 2014年3月4日(火)～3月6日(木)
「未来を創造する／新産業フォーラム・未来展2014」
(その他、主催：一般社団法人 中部産業連盟)
- (14) 2014年3月6日(木)
ESD21 「TPS/アジャイル開発フォーラム」
「カイゼンの足かせ」から「カイゼンを牽引するIT」へ
(協賛、主催：一般社団法人「持続可能なモノづくり・人づくり支援協会」)
- (15) 2014年3月7日(金)
平成25年度専門講習会『センサーネットワークの現状と将来動向について』
(協賛、主催：一般社団法人 電子情報通信学会 東海支部)

1.8 学生研究発表会助成

複数の大学からの学生が研究発表を通して互い研鑽を積む場を提供することを目的とする研究発表会に参加する学生を支援します。

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部正会員

助成対象発表会：2013年3月1日～2014年2月28日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：2013年3月1日～2014年2月28日

・申請：2件 助成

① 「第17回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会」

開催日：2013年8月3日、助成額：45,000円

② 「第11回情報学ワークショップ WiNF 2013」

開催日：2013年11月30日-12月1日、助成額：42,000円

1.9 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員(卒業後1年未満の会員も含む)で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成果をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する。

募集期間：2014年1月15日(日)～3月15日(土)

選定委員会：2014年4月15日(火) 名古屋大学 IB電子情報館南棟5階588セミナー室

表彰式：2014年5月19日(月) 於：ホテルルブラ王山

授賞者：8名 氏名(申請時所属) 『論文タイトル』

かみえのお かずま
上醉尾 一真 (名城大)

『IPv4/IPv6混在環境で移動透過性を実現するNTMobileの実装と評価』

こんどう な な こ
近藤 菜々子 (愛工大)

『スケッチブックでのお絵描きを三次元CGで拡張する映像ツールの
提案とその実現方法』

しみず こうへい
清水 皓平 (名城大)

『モバイルインターネット環境に適した遠隔DLNA通信システムの提案』

たかはし じゅん
高橋 淳 (名工大)

『ドライバー間の経路変更交渉を組み込んだ経路割当戦略の評価』

たかひら さとし
高比良 諭 (名工大)

『Experiment on Activity-Travel Survey System based on
Scheduling System』

なかむら のぶひろ
中村 暢宏 (静大)

『要求頻度の変化に対応する車々間通信による適応的位置依存情報配信
手法の評価』

はしもと こうしろう
橋本 高志良 (名工大)

『Read-after-Readアクセスの制御によるハードウェアトランザクショナル
メモリの高速化』

まつい ゆきなお
松井 雪治 (愛工大)

『スマートフォンを用いた麻雀自動得点計算システムの提案』

(五十音順)

1. 10 情報処理学会学生無料トライアル会員制度について

主旨

- (1) 学生会員獲得で尽力いただいた大学にインセンティブを与えたい。
- (2) 地域ごとに学生会員獲得の拠点校を作りたい。
- (3) 将来的に可能であれば「IEEE の Student Branch」のような学生のコミュニティを作りたい。

2012年10月大学別学生会員数により上位2校を拠点校 (名古屋大学・名古屋工業大学) に決定
2013年 9月大学別学生会員数により上位3位を拠点校に追加 (静岡大学)

2.2013年度決算報告

2.1 収入の部

(単位：円)

2013年4月1日～2014年3月31日

収入科目	2013年度(平成25年度)	
	予算額	決算額
交付金	4,074,000	4,160,288
(本部交付金)(7)	2,654,000	2,654,000
(賛助金還元分)(7)	420,000	500,000
(30周年記念行事支援金)	1,000,000	1,006,288
支部連合大会 収入	0	930,099 ※65,239 (イ)
利息	100	28 ※25 (イ)
前年度繰越金	883,267	883,267
計	4,957,367	5,973,682 ※5,108,819 (イ)

2.2 支出の部

支出科目	2013年度(平成25年度)	
	予算額	決算額
1. 事業費	2,620,000	2,660,057 ※1,795,194 (イ)
30周年記念行事費	1,197,344	1,006,288
支部連合大会費	400,000	906,803 ※41,940 (イ)
講演会・研究会費	350,000	252,437
支部助成金費	100,000	87,000
支部表彰費	170,000	149,515
年次報告会費	82,656	25,902
会議費	320,000	232,112
2. 事務費	2,010,000	1,883,568
通信費	10,000	9,430
消耗品費	120,000	5,118
郵便運搬費	10,000	3,800
雑費	5,000	420
事務委託費	1,865,000	1,864,800
3. 予備費	327,367	
4. 次年度繰越金		1,430,057
計	4,957,367	5,973,682 ※5,108,819 (イ)

(7) 本部交付金、賛助金還元分は、会員数（東海支部の正会員1,100名、学生会員326名、賛助会員25社：2014/3/31現在）に応じて加算される。賛助会員が増加により増額となった。

(イ) 平成25年度の支部連合大会は黒字（※65,239円）となった。このため、決算額の記載を、連合大会会計における当学会の配分率に応じた収入・支出総額で算出する方式に変更した。（※は従来の連合大会の収入・支出の差額（分担金）で記載した場合の参考金額）

3. 東海支部表彰規程改定について

改定の趣旨：他学会を鑑みて規程を見直す

東海支部表彰規程(改定案)添付資料 (P15-16)

第2章 学生論文奨励賞

(現行) 第10条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。なお副賞は図書カード1万円分とする。

(改定) 第10条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。なお副賞は15000円相当分とする。

4. 2014年度支部運営委員改選結果について

選挙期間：2014年2月1日～2014年3月3日

A：投票用紙発送数 1, 116件（1月現在会費納入済の正会員および名誉会員）

B：投票数 228票

C：投票率 [B/A] 20.4%

D：開票結果

役 職	候補者氏名	得票数
支部長	きむら ふみたか 木村 文隆	215
副支部長	たなか たかあき 田中 孝明	213
幹 事	おがわ やすひろ 小川 泰弘	210
〃	きたさか たかゆき 北坂 孝幸	207
〃	すやま としのり 陶山 利典	203

E：候補者以外の選定 なし

退任者 支部長 岩瀬 勇二郎（トヨタデジタルクルーズ）
副支部長 木村 文隆（三重大）
幹 事 柘植 覚（大同大）
幹 事 西田 直樹（名大）
幹 事 松本 忠博（岐大）

留任者 幹 事 磯 直行（中京大）
幹 事 打矢 隆弘（名工大）
幹 事 武田 治（中電）

5. 2014年度運営委員

(*新任、**再任、無印2年目)

役職	印	氏名	所属
支部長	*	木村 文隆	三重大学
副支部長	*	田中 孝明	中電シーティーアイ
幹事		磯 直行	中京大学
〃		打矢 隆弘	名古屋工業大学
〃		武田 治	中部電力
〃	*	小川 泰弘	名古屋大学
〃	*	北坂 孝幸	愛知工業大学
〃	*	陶山 利典	デンソー I Tソリューションズ
委員		浅井 徹	あいち産業科学技術総合センター
〃	*	五十川和哉	トヨタ自動車
〃		伊藤 憲生	OKIソフトウェア
〃		何 立風	愛知県立大学
〃		海谷 治彦	信州大学
〃		河合 敦夫	三重大学
〃		河辺 義信	愛知工業大学
〃		小暮 悟	静岡大学
〃		酒井 正彦	名古屋大学
〃		沢田 篤史	南山大学
〃		鈴木 秀和	名城大学
〃		東道 徹也	デンソー
〃	**	長屋 匡紀	中部電力
〃	*	原山美知子	岐阜大学
〃		増山 繁	豊橋技術科学大学
〃		松井藤五郎	中部大学
〃		吉澤 明芳	萩原電気
〃	*	本谷 秀堅	名古屋工業大学
〃	*	鈴木 敦	メイテソコム
〃	*	山田 雅之	中京大学
副支部長補佐		長瀬 進治	中電シーティーアイ

(五十音順)

6. 2014年度事業計画

6.1 支部報告会 2014年5月19日(月) ホテルルブラ王山

6.2 運営委員会 3回

第1回 2014年 5月19日(月) ホテルルブラ王山

第2回 2014年12月上旬(予定)

第3回 2015年 5月(予定) (2015年度支部報告会開催日)

6.3 幹事会 5回

第1回 2014年 4月 3日(木) 名古屋工業大学2号館11階ラウンジ

第2回 2014年 6月12日(木) 名古屋工業大学予定

第3回 2014年10月上旬(予定)

第4回 2014年11月中旬(予定)

第5回 2015年 2月中旬(予定)

6.4 支部大会(電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会として)

(1) 期 日: 2014年9月8日(月)、9日(火) 2日間

(2) 会 場: 中京大学 名古屋キャンパス

(3) 主担当学会: 情報処理学会東海支部

(4) 概 要: ・特別講演(1件)

・合同企画シンポジウム(1件)

・シンポジウム・チュートリアル(3件)

・一般講演(公募)

・懇親会

・広告募集・企業展示

・奨励賞

(5) 主 催: 電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、
照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、
IEEE名古屋支部

共 催: 電気設備学会中部支部・中京大学

6.5 講演会 主催7回

(1) 2014年5月19日(月) 報告会特別講演

演題: 「シリコンバレー最新ITトレンド

～Hitachi Solutions Americaの活動内容ご紹介～」

講師: 市川 博一氏 (Hitachi Solutions America, Ltd.)

於 : ホテルルブラ王山

(2) 2014年7月4日(金)

演題: 「モバイル空間統計と社会の頭脳システム」

講 師: 越智 大介氏

(株式会社NTTドコモ 先進技術研究所 ネットワークシステム研究グループ)

於 : 名古屋工業大学23号館2311講義室

※上記を含め7回開催予定

※海外を含む、遠方からの講師を招聘する講演会の計画を検討(年1回程度)

6.6 研究会 随時

(1) 2014年10月21日(火)・22日(水)

「フロンティア21エレクトロニクスショー2014」

(協賛、主 催: 中部エレクトロニクス振興会)

(2) 2014年5月22日(木)

情報システム学講演会

「Multiparty session types and their application in large distributed systems」

(その他、主 催：名古屋大学大学院情報科学研究科)

6.7 学生研究発表会助成

学生研究発表会助成は、複数の大学からの学生が研究発表を通して互い研鑽を積む場を提供することを目的とする研究発表会に参加する学生を支援します。

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部正会員

助成対象：2014年3月1日～2015年2月28日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：2014年3月1日～2015年2月28日

6.8 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員も含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成果をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する。

・実施概要

申請期間：2015年1月中旬～3月中旬

選定委員会：2015年4月中旬

表彰式：2015年5月予定（支部報告会開催日）

6.9 支部運営委員の役割分担について

支部長：木村支部長（支部を代表し、支部を統括する）

副支部長：田中副支部長（支部長を補佐し、支部長が欠けたとき又は事故があるときはその職務を代行するものとする）

幹事：支部長を助けて支部の事業を遂行する

委員：支部長と協力して支部の事業の遂行を援助する

■業務別担当幹事

・総括担当幹事：打矢幹事（幹事の取りまとめ、会議資料案チェック）

・庶務担当幹事：磯幹事（総務、議事録作成）

・会計担当幹事：武田幹事（会計管理、事務局監督員）

・学生担当幹事：小川幹事（学生会員増強）

・広報担当幹事：北坂幹事（支部HP管理、支部会員への広報）

・連合大会担当幹事：幹事全員

7. 2014年度予算

7.1 収入の部

(単位：円)

収入科目	2013年度（平成25年度）		2014年度（平成26年度）
	予算額	決算額	予算額
交付金	4,074,000	4,160,288	3,154,000
（本部交付金）	2,654,000	2,654,000	2,654,000
（賛助金還元分）	420,000	500,000	500,000
（30周年記念行事支援金）	1,000,000	1,006,288	0
支部連合大会 収入	0	930,099	900,000
利息	100	28	100
前年度繰越金	883,267	883,267	1,430,057
計	4,957,367	5,973,682	5,484,157

7.2 支出の部

支出科目	2013年度（平成25年度）		2014年度（平成26年度）
	予算額	決算額	予算額
1. 事業費	2,620,000	2,660,057	2,670,000
30周年記念行事費	1,197,344	1,006,288	0
支部連合大会費	400,000	906,803	1,100,000
講演会・研究会費(ア)	350,000	252,437	680,000
支部助成金費	100,000	87,000	100,000
支部表彰費	170,000	149,515	180,000
年次報告会費	82,656	25,902	360,000
会議費	320,000	232,112	250,000
2. 事務費	2,010,000	1,883,568	1,965,000
通信費	10,000	9,430	10,000
消耗品費	120,000	5,118	20,000
郵便運搬費	10,000	3,800	10,000
雑費	5,000	420	5,000
事務委託費	1,865,000	1,864,800	1,920,000
3. 予備費	327,367		849,157
4. 次年度繰越金		1,430,057	
計	4,957,367	5,973,682	5,484,157

(ア)講演会において海外を含む講師の招聘を考慮して増額

平成 11. 1. 20 作成
平成 11. 4. 27 改訂
平成 13. 5. 8 改訂
平成 14. 5. 10 改訂
平成 21. 5. 11 改訂
平成 23. 5. 16 改定
平成 24. 4. 1 改訂
平成 26. 5. 19 改定 (案)

情報処理学会東海支部表彰規程

第 1 章 総則

第 1 条 情報処理学会東海支部（以下、支部という）運営規約第 2 条に基づく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規程により行う。

第 2 条 表彰の種類は、次のとおりとする。

1. 学生論文奨励賞
2. その他、支部で特に認めた賞

第 3 条 前条の各表彰の候補者または候補の調査選定には、賞ごとに選定委員会を設ける。各選定委員会には委員長をおく。選定委員長は原則として支部長が当る。また、選定委員会の委員は委員長が推薦し、支部運営委員会で承認を受けるものとする。

第 4 条 各表彰の受賞者は、前条の選定委員会委員長の報告に基づいて、情報処理学会東海支部幹事会の議決で決定する。

第 5 条 各表彰の受賞者への賞状などの贈呈は、支部報告会などとあわせて適当な機会にできるだけすみやかに行う。

第 2 章 学生論文奨励賞

第 6 条 学生論文奨励賞は、支部に所属する学生会員（卒業後 1 年未満の会員を含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な業績をあげ、その将来を嘱望される者に贈呈する。

第 7 条 学生論文奨励賞の表彰は、年度毎に 1 回とし、その受賞者数は原則として 8 名以内とする。

第 8 条 学生論文奨励賞を受ける者は、情報処理学会の論文誌、情報処理学会が主催または共催する国際会

議・全国大会・研究会・シンポジウム（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を第一著者として発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。

- イ. 論文誌発表の場合は、掲載日時または採録決定日時が当該年度内であること。
また、学会講演発表の場合は、講演日時が当該年度内であること。
- ロ. 学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。
- ハ. 学生論文奨励賞を申請した時点で、支部所属の会員であるか、
または会員として入会を申請中であること。
- ニ. 過去に学生論文奨励賞を受賞していない者であること。
- ホ. 申請時において満30歳以下であること。

第9条 学生論文奨励賞の申請に際しては次の各項に掲げるものを選定委員会に提出する。

- イ. 学生論文奨励賞申請書
- ロ. 論文誌または講演予稿集の該当ページの写し。ただし、採録予定の場合は、原稿の写し、
および採録通知
- ハ. 発表内容梗概

第10条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。なお副賞は15000円相当とする。

コメント [1]: 現行：図書カード1万円
改定：15000円相当とする。

第3章 雑則

第11条 この規程に定めるもののほか、表彰規程の運用に関する必要な事項は別に定める。

第12条 本規程の改廃は、支部運営委員会の議決により行う。